



前橋市が「全国街路事業コンクール 特別賞」を受賞！ ～都市計画道路県庁群大線整備事業～

前橋市 都市計画部 市街地整備課

■はじめに

令和6年6月13日東京都千代田区の砂防会館別館シェーンバッハ・サポーにて「第36回全国街路事業コンクール」の表彰式が行われ、前橋市が施行した「都市計画道路県庁群大線整備事業」が特別賞を受賞しました。

■全国街路事業コンクール

全国街路事業コンクールは全国街路事業促進協議会が「街路整備に優れた業績をあげている地方公共団体等を表彰し、望ましい街路事業の推進と整備基準及び技術水準の向上を図ること」を目的として、国土交通省の後援を受け実施しているものです。今回、全国の地方公共団体より推薦された街路事業の中から、本事業を含む7事業が審査委員会の厳正なる審査を経て表彰されました。

■都市計画道路県庁群大線

県庁群大線は群馬県庁と主要地方道前橋箕郷線を結ぶ都市計画道路で、本事業は主要地方道前橋安中富岡線から北側約600m区間を整備したものです。整備区間は既成住宅地域内の非常に狭隘な道路であり、通学路の安全確保と道路ネットワークの強化を主な目的として、歩道整備や無電柱化等の道路改良を実施しました。

本路線の特徴としては路線の一部が風致地区に含まれ、沿線に前橋公園や臨江閣などの施設がある他、前橋市の代表的な河川である広瀬川を横断していることが挙げられます。



都市計画道路県庁群大線



臨江閣と群馬県庁

■歴史的景観に配慮した整備

事業の施行に伴い大正時代に造られた橋梁などの再整備が必要となりましたが、材料等の再利用・再活用をできる限り行うと共に、新設する構造物のデザインについては当時の意匠を踏襲することで、地域の歴史的景観の継承に配慮しました。一例としては広瀬川にかかる石川橋の架け替え工事において3Dモデルを作成し、デザイン検討やコントロールポイントの確認などを効率的に行うことで、バランスのとれた新橋を整備することができました。また、前橋市で最初に造られた鉄筋コンクリート橋である旧橋については、取り壊し前に3次元レーザー測量を実施し、歴史的土木構造物としてデジタルアーカイブ化を行いました。

■表彰理由(審査委員会コメントより抜粋)

前橋公園や臨江閣など歴史的施設が沿線にある中、大正時代に造られた歴史的な橋梁や地下道の保全に努めつつ、街路として必要な機能を併せ持つ形で整備されている点が高く評価された。これらの再整備では現場見学会の開催や既存のデザイン踏襲に努めるなどの工夫をしながら事業が進められており、市民が歴史を感じられ地域に愛され続ける街路となっていくことを期待したい。



広瀬川にかかる石川橋



前橋公園のめがね橋(地下道)

